

しなやかに市民による福祉

特定非営利活動法人

ほほえみサービス米沢

柴田 信子



平成元年、国は二十一世紀の高齢社会を見据えたサービスマシンの計画的整備を図るために「高齢者保険福祉推進十力年戦略（ゴールドプラン）」を策定した。

この年、社会福祉協議会の職員であった私は、保母から手話通訳として市の福祉課に出向した年であった。

当時は「施設福祉」から「在宅福祉」へ移行しようという流れの中でまだまだ施設入所を希望する人が多く、そのために待機者が増えているという状態であった。なぜなら在宅で暮らしたくともホームヘルパーのサービスには年齢や所得制限があったり、手続きが煩雑だったり、医師の診断書を提出しなければならなかったりと、利用しやすいシステムではなかったのである。

老人保健福祉計画で行ったアンケートでは「あなたの老後を色に例えれば何色か？」という問いに六十五歳以上のほとんどの人が灰色と答えている。人生の締めくくりが灰色とは何と寂しいことだろう。

今まで他人事ととらえていた老後の問題が明日は我が身であると実感した私の中で、困ったときに誰でも気軽に利用できる民間のサービスが必要ではないかという問題意識が広がり始めていた。それにボランティアが増えてくる予感もあった。人や社会のために役立つ、自分自身の生きがい、自己実現を図りたいなど動機はさまざまだが、とにかく動き出そうという雰囲気は嬉しかった。立派な社会資源ではないか。そんなとき、ボランティア切符の仕組みを全国に広げているさわやか福祉財団の堀田力氏の講演を聴き、強いインパクトと多くの示唆を受けたのである。

スタートだったが、市民による福祉を目指すことは魅力だった。「会員制」「有償制」「ボランティア切符制」を取り入れ、みんなが対等な立場、双方向の助け合いが出来るように、活動は「押し着せでなく、施しでなく、金儲けでないこと」をモットーにした。

多種多様な人に呼びかけ、さまざまな価値観を取り入れることも、これからの多様化、複雑化するニーズにこたえていくために欠かせない。地域づくりには男性の協力は必要だし、介護には元気な高齢者の知恵や工夫も大切である。また、障害を持つ人も持たない人も「与えられる福祉」から「参加する福祉」に歩み始める時期にきている。

平成五年四月「ほほえみサービス」はこうして誕生した。心配する家族や上司、友人の反対を押し切り、不安やリスクを覚悟しての

私たちは糸を手操るように会員を増やして在宅サービスと地域コミュニティづくりの二本柱で施設訪問、学校や企業、他団体との交流、バザーや各種研修会などを展開してきた。しかし、どんな事業でもボランティアを指す前には越えるべき壁はつきもの。ほほえみサービスも一見着実に進んでいるかに見える



が実際はお金と人の問題が重要な課題であった。初めのころは会の理念が浸透しなくて、有償だからどんなわがままでも言えるというサービスの受け手がいたり、助けてあげるの

だから自分の都合を優先させたりする提供者がいたりとなかなか足並みが揃わなかった。そのほか、マネージメントをしっかり身に付け事業を成り立たせること、多くの人に知ってもらうこと、想いを同じくする仲間を集めて育てること、行政や社会に提言できるように力を付けること等々課題は山積みだった。

しかし、一方では私たちを取り巻く状況も大きく変わり、平成五年七月には厚生省と中央社会福祉審議会からボランティアの有償性が認められ、同九年十二月には公的介護保険法、翌十年三月にはNPO法が成立した。特にNPOは、活動にロマンと魅力を感じながらも、やればやるほど矛盾を抱えてしまうという現実

に直面している者たちにとって、強力な助っ人になったことは間違いない。私たちもこれまでの団体を発展的に解消して新しくNPO法人としてスタートした。時代の流れに即応して介護保険の事業参入に挑戦できるのもNPOの恩恵である。これからの少子・高齢

社会の対応は行政だけでは限界がある。公益的なことは行政の専売特許だという意識を捨てて、行政と市民とのパートナーシップを築いていくことが大切である。最近ネットワークという言葉がよく聞かれるが、ネットワークとは形ではなく人づくりだと思ふ。他の団体や有償、無償の団体とも違和感なくつき合っていける、開かれた市民組織としてネットワークの輪を広げていきたい。

これからもボランティアな「助け合い」を主軸にして誰もが安心して老いられる手助けをし、少なくとも自分の老後は灰色ではなく、バラ色だとイメージできるようにしたい。民間の立場でゴールドプランを作りたいと始めた活動から七年、たくさんの実績と経験や多くの人々とのかわりの中から貴重な教訓を得ることが出来た。「ほほえみサービス米沢」はこれからもゆつくりとしなやかに、したたかに歩いていくつもりである。動けばきつと風が起きるはずだから……。

柴田 信子

特定非営利活動法人

「ほほえみサービス米沢」専務理事。

財団法人さわやか福祉財団インストラクター。

山形県総合開発審議会委員。

米沢市社会福祉協議会に19年3カ月勤務。

平成5年4月1日在宅福祉サービス団体「ほほえみサービス」設立、代表となる。主に家事援助サービス、身体介護サービスのほか、地域コミュニティづくりでボランティアの企画、運営、活動を行う。平成11年4月1日特定非営利活動法人に基づく法人になる。公的介護保険法により、指定居宅サービス事業者として申請予定。